書窓

Shoso

No.485　2025.10

太子町立図書館　編集発行

〒671-1561
兵庫県揖保郡太子町鵤
1310番地7

Tel (079)277-1580
Fax(079)277-5684

子どもの本だな 141

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

まぼろしの白馬

エリザベス・グージ 作
石井 桃子 訳（岩波書店）

孤児となったマリアは、古い領主館にすむ親戚に引き取られました。領地はどこも手いれがゆきとどき、村人は健康そうでした。マリアは領地の暮らしを守りたいと願いますが、村の松林にすむ黒い男たちが密猟をし、人々を困らせていました。それは、かつてマリアと黒い男たちの、先祖の間で繰り返された領地をめぐる争いがもとでした。村人はこの禍をおさめてくれるという勇気ある“月姫”を待ち望んでいました。いつしかマリアは、自分こそが月姫だと感じ…。

マリアの活躍と月姫伝説の謎解きで物語は勢いよく進みます。大人たちは風変りですが愛情深くマリアに接し、不思議な力を持つ動物たちがマリアをたすけます。使命を信じ、愛され守られているという思いがマリアを勇気づけ、黒い男たちとの和解まで導きます。10歳くらいから楽しめます。

（秋澤）

図書館の本棚 468

世界を大きく動かした植物

稲垣 栄洋 著　ＰＨＰエディターズ・グループ　（615）

アンデス山地原産のジャガイモは16世紀、ヨーロッパに持ち込まれた。芋類を見たことがないヨーロッパの人々は、ジャガイモの芽や緑の部分を食べ、ソラニン中毒者が続出した。ジャガイモは毒草と嫌われ、聖書に書かれていないため「悪魔の植物」として避けられた。

しかし、中世ヨーロッパが小麦の凶作による飢饉に見舞われる―近隣諸国との紛争の多かった時代、食糧不足は国力や軍事力の低下を招いてしまう―やせた土地でも育つジャガイモの普及活動が始まった。ドイツ北部にあるプロイセン王国のフリードリッヒ2世は、ジャガイモを毎日のように食べ、各地を回ってキャンペーンを展開した。軍隊にジャガイモ畑を警備させて人々の興味を引かせたり、武力で農民に栽培を強要し、反抗するものには鼻と耳を削ぎ落とす刑罰を与えたりした。この努力によって、ドイツでは早い時期からジャガイモが食されるようになった。

１７７５年、フランスは小麦に代わる救荒食を賞金付きで募集した。このときジャガイモの普及を提案したのがパルマンティエ男爵だった。プロイセン王国との戦争でドイツの捕虜となったが、ジャガイモのおかげで生き延びることができたからだ。ルイ16世と王妃マリー・アントワネットはジャガイモの花飾りを服につけて、大いに宣伝し、美しい観賞用の花として王侯貴族は競って栽培を始めた。次に、パルマンティエ男爵とルイ16世は、国営農場でジャガイモを栽培し、「ジャガイモは美味で栄養に富むもの。王侯貴族の食べ物であり、盗んで食べたものは厳罰に処す。」とお触れを出して、昼間は大げさに警備をつけ、深夜は手薄にした。好奇心に駆られた国民が深夜、畑からジャガイモを盗み、国民の間にジャガイモの普及が広まった。ルイ16世とパルマンティエ男爵による策略により、ジャガイモは飢饉から国民を救った。その後ジャガイモは、２００～３００年かけてヨーロッパ中に広まり、今では世界中の料理に欠かせない存在だ。

本書では他にトマト、イネ、サクラなど、植物が歩んできた歴史が紹介されている。トマトは実が赤すぎたため、毒草とされた…など身近な植物の意外な歴史が分かりやすく書かれていて興味深い。私たちが生きていくために支えとなっている植物、食材に改めて感謝したい。

（盛岡）

お知らせ

青空リサイクル～ひと箱市～

読まなくなった本を持ち寄って、古本市を開きます。個人提供なので、どんな本が集まるかお楽しみに！

- 開催日：**10月12日（日）** ※雨天の場合19日(日)に延期
- 時　間：**10:00～14:00**　※本がなくなり次第終了
- 場　所：図書館南側テラス

※本はすべて無料です。
※**本を出したい方は、事前申込が必要**です。

＜同日開催＞

雑誌ふろく抽選会

- 時間：10:00～18:00

※利用者カード1枚につき1点応募できます。
※抽選結果は後日発表します。

10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			×1	×2	×3	×4
×5	×6	×7	8	9	10	11
12	13	×14	×15	16	17	18
19	20	×21	22	23	24	25
26	27	×28	29	30	31	

11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	×4	×5	6	7	8
9	10	×11	12	13	14	15
16	17	×18	19	20	21	22
23	24	×25	×26	27	×28	29
30						

▶ ×印は休館日
- 祝日の振替休館
  10/15、11/5、11/26
- 館内整理日
  11/28

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間：
10:00～18:00
※金曜日のみ
10:00～20:00

10・11月の移動図書館（いずれも木曜日です）

10月	11月					
9日	6日			**福地(三反長)** 地域内 14:30～14:50	**米田** 公会堂 15:00～15:20	**竹広南** 公民館 15:30～15:50
16日	13日			**原池団地** 公民館 15:00～15:20	**山田** 掲示板前 15:30～15:50	**原** 太田東地区農村交流センター 16:00～16:20
23日	20日	**広坂** 公民館 10:30～10:50	**上太田** 公民館 11:00～11:20	**塚森** 地域内 15:00～15:20	**太子ニュータウン** 公民館 15:30～15:50	**吉福** 公民館 16:00～16:20

地下水

図書館は、毎年9月末から10月初めにかけて特別館内整理期間のために休館する。休館中の最も大きな仕事は蔵書点検だ。今年度は開架図書約12万冊を点検した。図書が行方不明になっていないか、正しい位置に配架されているか…図書館にとっては大事な作業だ。昔は曝書といって、本の虫干しを行っていたという。湿気の多い日本において、図書を保存するための大切な作業だったのだろう。藤沢周平の小説が原作の映画だったと思うが、城勤めの侍たちが大勢でたすき掛けをして蔵から書物を出し天日干しするシーンがあった。今は機械で本のバーコードを1冊ずつ読み取っていくのだが、蔵書点検中は梯子に上ったりかがんだり、ケースに入った本を取り出して読み込んだりと体力勝負である。図書を取り扱う仕事は今も昔も変わらない。遠い昔の人々が身近に感じられた。

その他、周辺の木々の剪定や屋上の掃除、書架の天板のホコリ取りなど、普段できない場所の掃除も行う。きれいになっていく図書館を見るのは気持ちよいが、ふと静かな館内を見渡すと寂しい気持ちにもなる。やはり図書館も本も、人に利用されてこそ生きるだと実感する。生き生きとした図書館であるために自分ができることは何だろうか。改めて考えることのできた数日間であった。（八木）